

新得町の小5と中2の「体力・運動能力・運動習慣」

平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を町内全小・中学校で実施しましたので、結果を公表します。教育委員会及び各学校では、結果を把握・分析し、成果と課題を検証した上で、今後の学校教育に役立てていきます。

なお、本調査から見えるものは特定部分のものであり、一側面を表したものであることから、新得町の児童生徒の体力・運動能力等の全てではありません。



《平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査》

調査期日

平成28年7月

対象学年

小学校5年生、中学校2年生

調査目的

①児童生徒の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②児童生徒の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

③学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

調査内容

①実技に関する調査

(1) 小学校

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20 mシャトルラン、50 m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 中学校

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走と20 mシャトルランのどちらか、50 m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

②質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する調査

◆◆体力・運動能力調査から見てくること◆◆

《体力・運動能力の比較》

➤ は全道・全国を上回った ➤ は下回った ➡ は概ね同程度を表す

種 目	判定項目	小 5 (男子)	小 5 (女子)	中 2 (男子)	中 2 (女子)
握力	筋力	➡	➤	➤	➡
上体起こし	筋持久力	➤	➤	➡	➡
長座体前屈	柔軟性	➤	➤	➡	➡
反復横とび	敏捷性	➤	➤	➤	➤
シャトルラン	全身持久力	➤	➤	➡	➡
50m走	走力	➤	➤	➤	➡
立ち幅とび	跳躍力	➤	➤	➡	➤
ボール投げ	投力	➤	➤	➤	➡

《体格の比較》

項 目	小 5 (男子)		小 5 (女子)		中 2 (男子)		中 2 (女子)	
	身長	体重	身長	体重	身長	体重	身長	体重
新得町	139.6	36.8	140.1	35.0	163.1	53.5	154.6	47.3
全道	139.4	35.4	140.8	34.8	161.3	50.2	155.3	47.3
全国	138.8	34.0	140.1	33.9	159.9	48.5	154.8	46.7

【小学校】

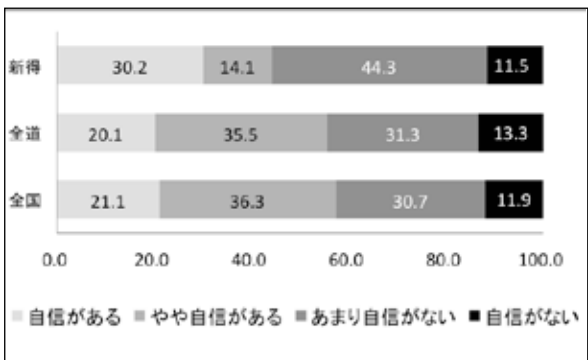
男子は、2 種目で全道・全国を上回り、女子は、5 種目で上回りました。しかし、男女ともに「長座体前屈（柔軟性）」、「反復横とび（敏捷性）」、「50m 走（走力）」で下回ったため、課題が見られます。

【中学校】

男子は、3 種目で全道・全国を上回り、女子は、2 種目で上回りました。男子は、「50m 走（走力）」で下回ったため、課題が見られます。

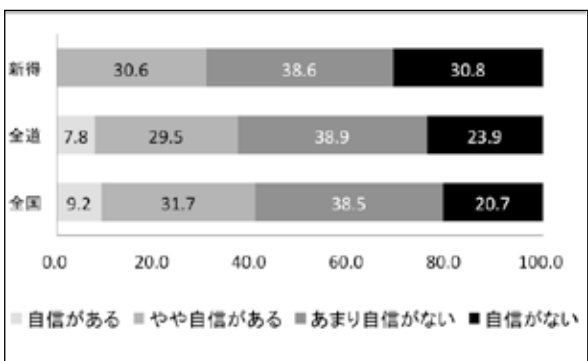
◆◆運動習慣等調査から見てくること◆◆

○体力に自信がありますか（小5男女平均）



※ 30 項目のうちから 1 つを抜粋

○体力に自信がありますか（中2男女平均）



※ 30 項目のうちから 1 つを抜粋

【小学校】

《家庭生活》

・9 割以上の児童が毎日朝食・夕食を食べている。

・9 割以上の児童が毎日6 時間から8 時間程度の睡眠を取っている。

《運動面》

・5 割以上の児童が体育の授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらって、できないことができるようになった。

・4 割以上の児童が体力に自信がない。

・4 割以上の児童が体力テストや体力向上について目標を立てていない。

【中学校】

《家庭生活》

・9 割以上の生徒が毎日朝食・夕食を食べている。

《運動面》

・9 割の生徒が運動やスポーツを大切、やや大切と考えている。

・6 割の生徒が中学校を卒業しても自主的に運動をしたいと考えている。

・9 割の生徒が最後までやり遂げて嬉しかったことがある。

・7 割近くの生徒が自分の体力に自信がない又はあまり自信がない。

各学校の取組と成果・課題

【小学校】

各学校で校内の体力・運動能力向上の目標を設定し、指導方法の工夫や改善に取り組みました。

その結果、「体力に自信がある」と回答した児童は、昨年の24 % から30 % に増え、「体育の授業で先生に教えてもらって、できなかったことができるようになった」と回答した男子児童が46 % から53 % に増えており、成果が見られました。

一方、「体力に自信がない、あまり自信がない」と回答した児童も多いことから、各児童に合った指導方法を考える必要があります。

【中学校】

各学校で全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を教職員同士で情報共有し、体育の授業でコツやポイントの適切な指導を行いました。

その結果、「中学校を卒業しても自主的に運動をしたい」と回答した男子生徒が43 % から72 % に増えました。

一方、「自分の体力に自信がない、あまり自信がない」と回答した生徒が多いことから、各学校で体力向上を視野に入れた取り組みが必要です。

課題改善に向けて

教育委員会では、今回の結果を受け、課題改善に向けた方針を定めました。

◇児童生徒に運動の楽しさや喜びを実感させ、自主的な運動を促進させる必要がある。

◇運動が好きだという児童生徒が増えるよう、体育の授業を改善する必要がある。

これを踏まえ、次の事項に重点を置きます。

①各児童生徒の体力や運動能力などを踏まえ、それぞれに合わせた授業内容を工夫し、学年ごとの具体的な到達目標を設定するなど、小中学校の全体的な体力・運動能力の向上を図ります。

②体力向上を視野に入れた休み時間の活用や学校行事等への取り組みを推進します。

③教員の指導力を向上させるため、北海道教育委員会等が実施する体育実技研修への積極的参加を促進します。

④家庭における基本的な生活習慣の確立と運動習慣の啓発を図ります。

⑤地域の社会教育活動（運動・スポーツ）への積極的参加など、日常的な運動の促進を図ります。